

## SPECIAL REPORT

## 令和2（2020）年度酪農全国基礎調査結果の概要

本会議は、独立行政法人農畜産業振興機構・畜産業振興事業の補助を受け、「中小酪農経営等生産基盤維持・強化対策事業」の一環として令和2年度酪農全国基礎調査を実施したので、その結果の概要を紹介する。

## 1. 調査目的

わが国の酪農においては、就農人口の減少と高齢化が顕著であり、新たな担い手の中心的人材である若年層の新規就農促進と就農後の経営継続・安定化に向けた支援が喫緊の課題となっている。その背景には、新規就農者自身では対応困難な課題として、就農候補地に関する情報の収集や地域社会との良好な関係構築などがあると言われている。しかし、このような課題に対する取り組みは、未だ緒に就いたばかりである。

従来の酪農全国基礎調査では、酪農経営の実態把握に主眼を置き、そのための設問と分析方法を採用してきた。したがって、酪農生産基盤の強化、とくに経営継承対策や新規就農対策に、その調査結果を反映させる機会は限られていたと推察される。

そこで本年度の調査では、全国の酪農家を対象とするアンケート調査（悉皆調査）によって、酪農経営の実態を明らかにするとともに、酪農家の経営計画や経営継続意向などの分析を通じて、経営資源の有効利用や新規就農支援を始めとする酪農生産基盤対策の検討に資することを目的とする。併せて、酪農をめぐる国内外の情勢の変化を踏まえ、酪農経営の持続可能性を高めるための情報を収集することとした。

## 2. 調査対象と調査票回収結果

原則的には、令和2年10月1日現在に指定団体の直接会員又は間接会員となっていた酪農家12,569戸を調査対象とした。調査票の回収結果は表に示したとおりである。

令和2（2020）年度酪農全国基礎調査票の回収結果

単位：戸、%

	調査対象数（A）	回収数（B）	回収率（B/A）
北海道	5,097	2,818	55.3
都府県	7,472	6,864	91.9
東北	1,863	1,544	82.9
関東	2,264	2,182	96.4
北陸	251	249	99.2
東海	639	610	95.5
近畿	370	322	87.0
中国	546	474	86.8
四国	265	260	98.1
九州	1,222	1,171	95.8
沖縄	52	52	100.0
全国	12,569	9,682	77.0

注）調査対象数は2020年10月における「指定団体別出荷農家戸数」

### 3. 主な調査結果

ここでは、今回（2020年度）の調査と前回（2017年度）の調査の結果を比較することによって、調査結果の特徴を明らかにしてみたい。

#### （1）経産牛飼養頭数規模別酪農家戸数の変化

この3年間において、北海道では「75頭以上」の規模

階層の占める割合が上昇し、同規模階層では実戸数も増加している。都府県では、「30頭台」と「50頭以上」の規模階層の占める割合が上昇している。しかし、実戸数の増加は、北海道と同様に「75頭以上（「150～199頭」を除く）」の規模階層だけでみられる。

経産牛飼養頭数規模別酪農家戸数の変化

			20頭未満	20～29	30～39	40～49	50～74	75～99	100～149	150～199	200頭以上	計
北海道	2017年	実数（戸）	89	154	318	431	874	390	268	107	126	2,757
		比率（％）	3.2	5.6	11.5	15.6	31.7	14.1	9.7	3.9	4.6	100.0
	2020年	実数（戸）	73	147	298	372	782	396	363	142	216	2,789
		比率（％）	2.6	5.3	10.7	13.3	28.0	14.2	13.0	5.1	7.7	100.0
都府県	2017年	実数（戸）	2,041	1,597	1,244	913	903	310	254	80	130	7,472
		比率（％）	27.3	21.4	16.6	12.2	12.1	4.1	3.4	1.1	1.7	100.0
	2020年	実数（戸）	1,766	1,346	1,188	795	874	320	282	78	172	6,821
		比率（％）	25.9	19.7	17.4	11.7	12.8	4.7	4.1	1.1	2.5	100.0

注）実数および比率には、経産牛飼養頭数の無回答者を含まない。

#### （2）搾乳方法の変化

搾乳方法の中心は、引き続き「パイプラインミルクカー」と言えるが、北海道、都府県ともに、「ミルクングパーラー」と「搾乳ロボット」を導入している酪農家の占める割合が上昇している。その傾向は、都府県より北海道

の方が顕著である。なお、「その他」の実数と比率が上昇している要因として、2020年調査が複数回答であったため、他の搾乳方法との併用が含まれていることが推察される。

搾乳方法の変化

			パイプライン	パーラー	搾乳ロボット	その他	無回答	酪農家数
北海道	2017年	実数（戸）	2,067	572	56	62	60	2,817
		比率（％）	73.4	20.3	2.0	2.2	2.1	
	2020年	実数（戸）	2,062	689	215	401	3	2,818
		比率（％）	73.2	24.4	7.6	14.2	0.1	
都府県	2017年	実数（戸）	5,663	1,149	54	592	104	7,562
		比率（％）	74.9	15.2	0.7	7.8	1.4	
	2020年	実数（戸）	5,130	1,189	161	1,157	29	6,864
		比率（％）	74.7	17.3	2.3	16.9	0.4	

注1）2017年調査は単一回答、2020年調査は複数回答である。

注2）搾乳方法の「その他」は、バケットミルクカーと手搾りである。

## (3) 経営主年齢別酪農家戸数の変化

北海道、都府県ともに「30歳代」、「40歳代」、「70歳以上」の経営主の占める割合が上昇しており、とくに都府

県の「70歳以上」で顕著である。また、この間における平均年齢の変化をみると、北海道ではやや下降し、都府県はほぼ横ばいで推移している。

北海道の経営主年齢別酪農家数の変化

	酪農家数 (戸)		構成比 (%)	
	2017年	2020年	2017年	2020年
70歳以上	49	97	1.8	3.6
60～69歳	779	699	28.6	26.2
50～59歳	827	689	30.4	25.8
40～49歳	654	731	24.0	27.4
30～39歳	386	430	14.2	16.1
30歳未満	26	23	1.0	0.9
計	2,721	2,669	100.0	100.0
平均年齢	52.1	51.6		

都府県の経営主年齢別酪農家数の推移

	酪農家数 (戸)		構成比 (%)	
	2017年	2020年	2017年	2020年
70歳以上	1,025	1,393	14.1	21.2
60～69歳	3,068	2,262	42.1	34.4
50～59歳	1,725	1,434	23.7	21.8
40～49歳	1,039	1,070	14.3	16.3
30～39歳	391	383	5.4	5.8
30歳未満	43	34	0.6	0.5
計	7,291	6,576	100.0	100.0
平均年齢	59.2	59.3		

## (4) 担い手確保状況の変化

この3年間における担い手確保率は、北海道、都府県ともに上昇している。なお、担い手確保率の上昇が大きい

い北海道においては、「経営主50歳未満」と「経営主50歳以上で後継者あり」の占める割合の上昇が、都府県のそれを大きく上回っている。

担い手確保状況の変化

単位：%

		北海道		都府県	
		2017年	2020年	2017年	2020年
経営主50歳未満		37.8	42.0	19.5	21.7
経営主50歳以上	後継者あり	18.3	24.7	26.9	27.5
	後継者なし	20.2	18.5	35.1	33.2
	わからない	11.8	9.3	15.5	12.6
無回答		11.9	5.5	3.0	4.9
担い手確保率		56.1	66.7	46.4	49.2
酪農家戸数 (戸)		2,817	2,818	7,562	6,864

注) 「担い手確保率」 = 「経営主50歳未満」 + 「経営主50歳以上 (後継者あり)」

## (5) 今後の生乳生産計画の変化

北海道では、今後の生乳生産について「減産予定」と「中止予定」の経営の占める割合が上昇している。都府

県では、「増産予定」と「中止予定」の占める割合が上昇しているものの、実戸数では「増産予定」は減少し、「中止予定」が増加している。

今後の生乳生産計画の変化

			増産予定	現状維持	減産予定	中止予定	わからない	計
北海道	2017年	実数 (戸)	873	1,704	146	34	59	2,817
		比率 (%)	31.0	60.5	5.2	1.2	2.1	100.0
	2020年	実数 (戸)	831	1,602	158	172	55	2,818
		比率 (%)	29.5	56.8	5.6	6.1	2.0	100.0
都府県	2017年	実数 (戸)	1,815	4,794	582	189	181	7,562
		比率 (%)	24.0	63.4	7.7	2.5	2.4	100.0
	2020年	実数 (戸)	1,723	3,863	518	646	114	6,864
		比率 (%)	25.1	56.3	7.5	9.4	1.7	100.0

## (6) 酪農経営継続上の問題の変化

酪農経営を継続する上での問題については、この3年間に北海道、都府県ともに、乳価と購入飼料価格が「今

後どうなるか不安」を挙げた酪農家の占める割合が大きく上昇している。加えて、北海道では、「酪農政策や貿易制度が今後どうなるか不安」が大きく上昇している。

酪農経営継続上の問題 (複数回答、抜粋)

単位：%

		酪農家数 (戸)	労働力不足で自給飼料生産・ふん尿処理が限界	労働力不足で乳用牛の飼養管理が限界	経営主が高齢化している	経営後継者が確保できない	乳価が今後どうなるか不安	購入飼料価格が今後どうなるか不安	酪農政策や貿易制度が今後どうなるか不安
北海道	2017年	2,817	14.2	26.2	15.0	12.4	15.5	6.9	13.4
	2020年	2,818	16.4	27.6	19.4	16.5	43.3	20.5	25.9
都府県	2017年	7,562	21.4	27.5	30.7	18.1	16.5	18.7	12.5
	2020年	6,864	19.6	25.1	32.2	19.7	24.0	28.3	16.1